

大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台 天文シミュレーションプロジェクト 科学諮問委員会(2020-2022 第2回)

□ 日時と場所

2021年09月27日(月) 15:00 - 16:00 JST - ZOOM

□ 参加者

\* 出席委員

井上剛志, 久徳浩太郎, 諏訪雄大, 富田賢吾, 藤井通子, 町田正博

\* 欠席委員

なし

\* 陪席者

常田佐久(国立天文台台長), 齋藤正雄(研究連携主幹, CfCA 担当執行部), 小久保 英一郎(CfCA プロジェクト長), 滝脇知也(科学研究部助教, SAC 担当), 書記(CfCA)

□ 議事次第

□ 協議事項

\* 諮問事項についての質問と提言

\* CfCA 機材のコストについて(資料1)

\* CfCA の併任について(資料2)

\* SAC の概要について(資料3)

\* 諮問事項について(資料4)

□ 報告事項

\* TAC の概要について(資料5)

資料一覧

資料1 使用予算の調査について

資料2 科学研究部から CfCA への併任について

資料3 CfCA 科学諮問委員会の概要

資料4 CfCA 科学諮問委員会の諮問事項について

資料5 CfCA 時間割あて委員会(TAC)の概要

資料6 運用報告

-----

## □ 議事録

### \* 諮問事項についての質問と提言

2021 年 8 月 18 日に委員が集まって諮問事項について話し合った。質問と提言になるがそれを先に話し合いたい。（町田）

以前(2019 年)の SAC 時に諮問事項に回答したが、人事面で技術系職員が常に足りないという話があった。今回 CfCA が講師や准教授を公募していることと関係があるのか。SAC として人事要求をしたので状況を確認したい。（町田）

講師や准教授公募の件は全く別である。技術系職員も希望は出し、調整中である。（小久保）  
[ここで技術系職員に関する議論を行なったが、未決定の人事についての情報が含まれるため議事録からは削除した。]

SAC から何かを提案する際に、それを主導する人が確保できるかどうかは重要である。具体的には SAC では今回ラージプログラムを立ち上げて国際化を行いフラッグシップ的な計算を立案しようという考えだが、そこに人員をつけることは可能かどうか気になっている。人事について、どこまで情報が得られるのか、どこまで助言や要求をできるのかを聞きたい。例えば、進行中の人事の情報を共有することができるのか？公募書類の文面を事前に見せてもらい、文面について助言することができるのか？あるいは SAC が人事選考委員に入れないか？（町田）

情報はできる範囲内で共有したい。これまでは人事について、旧理論専門委員会の時も詳細な提言を受けたことはない。人事選考は運営会議のメンバーが人事選考委員をすることになり、SAC から入った例はない。（小久保）

科学諮問委員会でプロジェクトの人事を要求するのは非常に稀であろう。例えば利用者のニーズに基づいてそれに対応できるような計算機システムが運用できるような体制にしてほしい、といった提言を SAC で行い、そのためにどういった人事を行うかといったことはプロジェクトの方で判断するというのが一般的なやり方だと思う。SAC から提言する場合もどういう人材が必要かをプロジェクト長に言ってもらってプロジェクト長がそれを参考にして人事要求をするという形になると思う。人事選考の委員については、助教の場合はプロ長が組む内部選考委員会で選考してそれを人事選考委員会に挙げて選考し、その後運営会議で審議する。内部選考委員の選考はプロ長の裁量が強く出るため、選考委員の選定などは SAC の意見を聞くこともできる。それ以外の人事の選考委員の選定については SAC の意見は反映されない。（齋藤）

大体理解した。（町田）

今、次期中期計画を練っていると聞いている。中期計画の期間はいつはじまって、今回の SAC の提言はどの中期計画に反映されるのかを教えて欲しい（町田）

次の中期計画は来年度から始まり 6 年間続く。つまり、22 年から 27 年となっている。（齋藤）

来年度 4 月からの中期計画が始まるので来年度 9 月に SAC から提言を出すのでは間に合わないのではないか？それ以前にまとめなくてはならないのか？（町田）

今の次期中期計画の文面には CfCA については詳細なことや定量的なことは書かれていない。SAC にはもっと詳細なことについて諮問している。中期計画は 4 年目と最後に評価されるため、その時に反映されるようなタイミングで提言していただくことを期待している。天文専用のスパコンを導入して中期計画をやるのか、より強力なパワーのある計算機をどこか別のところと共同運用するのか、計算機群のコンビネーションをどうすれば使いやすく成果が出やすいか、といったあたりを提言いただければ、残りの中期計画はそれに基づいて計画を立てることができる。そういう意味で今期は重要だと思っている。（齋藤）

中期計画の文章は修正ないだろうと思う。ここでは次期スパコンどうするかを検討してほしい。予算のことを今の段階で考慮するのは難しいので、ひとまず現状程度と仮定してほしい。（常田）

またスパコンリプレイスは来年度始まるわけではない。いつまでに提言を出せば、リプレイスに反映できるのかは小久保プロジェクト長と話し合っ欲しい。（齋藤）

ちなみに手続きとしては SAC からの提言をいつまでなら反映できるか（小久保）  
修正する最後のチャンスは 1 月である（齋藤）

中期計画は書いたことしか重要性をもたないと理解している。そこにスパコンリプレイスを書いて欲しいと CfCA としては希望を出していた。（小久保）

[ここで次期中期計画の文面についての議論が行われたが、進行中の事案であり公開に適さないため、議事録からは削除した。]

次期中期計画に書いてないと考慮されないということはない。次期中期計画の粒度は粗い。3 大プロジェクトですら記述が非常に少なく、CfCA については 1 行程度である。また、ここでの文面と予算が紐づいているわけではない。（常田）

書いたことだけが評価されるわけではなく、プラスアルファでやると高評価になることもある。（齋藤）

CfCA の諮問事項に出ている将来計画に対して、ラージプログラム、グループキューを作りたいと考えているが、SAC が提言するだけでは不十分で、実際に SAC の提言に対応するために CfCA

側でワーキンググループを作って欲しい。このように継続的に作業してもらえる人員を作ることは可能か。（町田）

SAC の提言を受けて UM で議論することになる。議論の結果、実際にやることになれば継続的に担当する人はつけられる。（小久保）

UM で議論するにしても、準備として調査等をお願いしたい。（富田）

その点は滝脇さんを窓口とするということでよいか。（町田）

はい。（小久保）

滝脇さんの業務が重くなってしまうがその点は大丈夫か。（町田）

滝脇さんが大変なようであれば CfCA 内部で分担する。（小久保）

論文調査に関してならば研究評価支援室がサポートできる。（齋藤）

#### □ 協議議題

##### \* CfCA 機材のコストについて（資料 1）

ファイルサーバに毎年結構な額がかかっているのは増強しているか？（町田）

そうだ。古い機材を捨てて新しい機材を買っている。（滝脇）

GPU に伴って GRAPE を廃止するという話だったがどうなっているか。（町田）

今年度中に止める予定である。募集は来年度からやめる。（小久保）

この資料を持ちかえって SAC で相談する材料とする。（町田）

運営費交付金は CfCA に配分されているもので、LS はリーダーシップ経費、NINS 経費は書類を書いて審査されて受理された目的のための予算である（滝脇）

交付金額しか毎年来てない。それ以外は競争的資金で計算機を整備している。（小久保）

運営費交付金は維持費くらいしか出ないということか（町田）

そうだ（小久保）

##### \* CfCA の併任について（資料 2）

SAC としては、科学研究部はなるべく併任しないで研究に専任したほうがよいと考えている。

併任率の見直しをしているということだが、現状はどうなっているか。（町田）

元々 CfCA を担当する人は当時の理論研究部から交代で担当することになっていたが、交代はうまくいっていない。CfCA を本務とする人員だけでは人手が足りないので、公平感ができるように気をつけながら併任を続けてもらっている。また、CfCA に全く関わりのない方を併任にするのはよくないので、研究で CfCA の機材を使っている、あるいは使ってみたいと言われた方に併任してもらっている。

低い併任率の方が多くいるより、高い併任率の人が少人数いたほうがまとまった仕事をしやすいので何年か交代でやってはどうかと考えているが、若い方は入れ替わりがあるのでどういう形がよいかは検討中である。（小久保）

10%の併任率の方は何をやっているのか。（町田）

資料2にあるとおりの業務である。機材の運用以外について、いろいろ担当してもらっている。

科学研究部に併任をしなくてはならないという決まりはあるのか？本人の意思で併任していると思ってよいのか？（町田）

もし、本人の希望といっても着任時にはなかなか断れないのではないのか？（富田）

まず、着任の時に主任と交渉して併任が決まり、契約書を書くことになる。理論研究部主任や科学研究部部長が仕事内容を決めて、その後小久保が話を聞く形になっており、確かにどこまで本当の意思かはわからないところもある。ただし、もっと高い併任率を提案したが、それを断った方もおり、ある程度、本人の意思は反映されている。（小久保）

10%の人には最終的には併任を抜けてもらうのがよいが、具体的にどうすればよいかはわからない。（町田）

元々CfCAに専任している人も理論研究部に戻るというルールであったが、なかなかそうはいかない。やりたくない人は出ていって良いとすると人が足りなくなる。ハードウェアの面倒が見られる技術系の人がいれば楽になる。（小久保）

10%だと100%で仕事している人から見て、逆に不公平感がないか。（富田）

不公平感はあるかもしれない。併任率30%の滝脇さんやCfCAを本務とする方の多すぎる負担を減らすために、30%くらいでまとめてハードウェアの面倒をみることをやってもらいたい。（小久保）

30%の併任率の方にハードウェアの責任を負わすのは厳しい。100%の専任の技術系職員を雇うことによって維持するべき。科学研究部は本来研究を行うはずなので理念に反する。併任はサイエンスに関することならよいと思う。（富田）

\* SACの概要について（資料3）

前回のSACで細則を作るという方向性であったが、そのような方針は相応しくない。ルールを作るのではなく単にこれまでの運用についての説明をするという方向に転換した。（滝脇）  
これはわかりやすく引き継ぎしやすい。（町田）

\* 諮問事項について（資料4）

調査結果について、4d2uに関することはまだ調査中である。他は今回すべて報告した。（滝脇）

ラージプログラムの件で追加調査をお願いしたい。（町田）  
承知した。（滝脇）

ラージプログラムについては今年度 UM で話していただくよう準備してもらえ  
ということでしょうか。（小久保）  
現時点で考えていることをまとめて、意見を聞こうと思っています。（町田）

□ 報告事項

\* TAC の概要について（資料 5）

TAC の規定を文書にまとめた。TAC の人数を具体的にしてほしいとコメントいただいたが、7 人  
いれば十分、とした。（滝脇）

前回 SAC から指摘したことは反映されている（町田）